

卒業生、大いに語る ~科学総合コースの思い出~

久しぶりに...

懐かしい顔が小野高校に集まりました。60回生の松本直久君(岡山大学医学部医学科)、城野みなみさん(京都大学工学部建築学科)、石田麻奈さん(神戸大学発達科学部)、61回生の依藤健太郎(和歌山県立医科大学医学部医学科)の4名です。高校時代の思い出を語ってもらいました。



現在の進路を選択した理由は？

松本：僕は医師という仕事に就きたいと思って科学総合コースに進学してきたので、その夢に向かって3年間頑張り、夢を実現させることができました。科学総合コースの先生方はほんとに親身になって僕たちのためにいい授業をしてくださったので、学力を上げることができました。質問にも丁寧に答えてもらえて、満足しています。

城野：私は将来の夢とかはあまりなく、理系に進んだのも数学が好きだったからです。工学部に決めたのは、セミナーを通じて、ものづくりとかに興味を持ち出して、その中でも一番自分の身近にある建築物に興味を持って、建築学科に決めました。3年間塾には行ってなかったのですが、十分な量の家庭学習課題があり、授業も志望校合格へ向けて、十分な内容だったと思います。

石田：私は夏休みに入る直前までこの大学を受けようか決めかねていて、どうしようかなと思っているときに、ポロッ

と先生から「神戸大学行くと思っただけだな」と言われて、その一言で決めました。2人のように最初から目標があったわけではないけど、パッと決めてもきちんと最後まで突き通せたのは、クラス的环境もあったと思うし、すごいみんなが頑張ってる様子とかを見ていたら、自分も頑張らないといけないという影響をすごい受けて、私も塾には行かなかったんですけど、ちゃんとできたっていうのは、科学総合コースの環境というのが大きいと思います。

依藤：僕は父が医者だということに影響を受けたと思います。僕も3年間塾に行っていないんですけど、3年生の夏休みまでは、しっかりと学校の授業をやるというだけで、すごい力がつく、カリキュラムだったと思います。満足しています。

コースセミナーの思い出

松本：コースセミナーは大学の先生等を招いて授業をしてもらえるので、高校の授業では味わえないような高度な内容を受けることができ、充実していました。

城野：内容的には大学の先生のお話は難しいところがあったんですけど、高校の授業では聞けないような専門的な研究の最先端のお話が聞けるので、将来への視野が広がったと思います。

依藤：元松下電器の研究所の川又先生のお話が、印象に残っています。

石田：あ、それはDVDとかのお話だよ。身近にあるネタをわかりやすく、高校生にもわかりやすくしてくださったし、私は文系だったけれど、ちょっと理系的なお話も身近に感じられ、おもしろかったです。

依藤：話をとられたけど、次世代の技術に

ついてよくわかって楽しかったです。

松本：京都大学名誉教授の神田啓治先生は、ほんとにすごい方でした。どんな質問にも答えてくれる人で、石油を掘ったあとの穴をどうするか等、的確に答えていただきましたし、本当に貴重な話が聞けたと思います。

総合的な学習「探究」の思い出



石田：(探究論文集を見て)これすごく懐かしいんだけど！私はグループでやったんですけど、フラーレンの球体をつくるためのキットを使って、グループ6人が一人ひとり自分の課題を見つけて最終的にまとめた形になりました。つくる過程も面白かったし、式の上とか想像上でしかないフラーレンの形を自分で探してきてそれを自分で組み立ててつくってみるという過程がすごく面白かったです。

依藤：ボールの回転と変化の関係について探究しました。実験器具は扇風機を学校から借りたり、家からボールを持ってきたりと簡単なものでやりました。

松本：物理的にボールの運動について調べたのですが、授業でやる理論的なものじゃなくて実験的に実際やってみたらどうなるのかを確かめたくて簡単につくれる材料を持ってきて実験器具を作っていました。自分たちで考えて実験方法を話し合っ決めて、そして結論を出してっていうそういうプロセスを踏んでいく中で、学び方っていうのが自然と身についていたのかなと思います。

城野：私は数学のまだ証明はされてない自然数の加法回文性っていう予想に一人で取り組みました。まだ最先端のコンピュータとかを使っても解明されていない問題なので、証明できると思っはなかつたのですが、仕組みがどうなっているのかということなどをプログラミングから教えてもらいプログラムを自分で作りました。最終的には考察までで終わってしまったのですがそこまで一人で検証していきました。結構グループでやっている人が多かったのですが、一人だったのでどうしたら結論に近づけていけるのか、できないとわかったらどういう方面から見て考えていこうとかかそういう考察力がすごく身についたと思います。

クラスについて教えて？



松本：僕と城野さんは3年間、委員長と副委員長をやっていたんですが、科学総合コースというクラスは3年間メンバーが変わらないクラスで本当に顔見知りだからまとめやすいというのもあったし…。

城野：個性的なメンバーが多いから…。

松本：いろんなところで特徴を持っている子がいるから、別に委員長と副委員長がすべてをしなくても、行事ごとにリーダーになれる人がいっぱいいたので…。

城野：そうそう。石田さんも良くしてくれていたから。

石田：(私は)行事のときだけ出てくるから。一番印象に残っているのは、コーラス大会と修学旅行のエイサーかな。城野さんも言ったみたいにずっとクラスが変わらないからお互い知っている部分もあるし、やりやすいし、エイサーと2年の最後のコーラス大会とか最後の行事になるとみんなで盛り上がっていきけるのがあって、ね、良かったよね。

城野：コーラス大会も1年2年と2回あったけど、40人で3年間一緒なので、去年こうだったから今年はどうしようといっぱい話し合えて楽しかったです。

勉強って頑張った？



松本：みんなが志望校合格へ向けて必死に頑張っている姿が教室にはあり、朝も来た人から自分で勉強していてそれを見て自分もやっぱり頑張らないと思いますし、授業中に問題を解く場面でも、周りのみんながすごいできていたら自分ももっと頑張らないととか、知らず知らずのうちに切磋琢磨ができていたのではないかと思います。

城野：自分では結構追い込まれたりしない勉強しようという気にならない性格なので、教室の雰囲気というのがすごく自分の後を押してくれた気がします。

石田：すごい頑張る人が多いのもそうですが、その分野に長けている人が必ずクラスにはいて、ちょっと数学が苦手だなと思ったらすごい数学得意な子が前で黒板に書いて教えてくれたりして、みんなで一緒に乗り越えていこうという教えあう関係ができ、それが勉強面でもよかったと思います。依藤：周りにできる人が多かったので、自分を吊り上げてもらったかなという感じがあります。ものすごいできる人がいて、あいつに出会ってなかったら今の自分はないと思うので、感謝しています。

中学生に一言

松本：本当に科学総合コースは意識の高い集団で勉強するにはもってこいのところだと思います。それに加えて、「探究」やコースセミナーなど、ほかのところでは体験できないこともあるので、もう一度高校に行くなら絶対に科学総合コースを選ぶと思うので、みなさんも科学総合コースに進学していい3年間を送ってほしいと思います。

依藤：40人の個性が集まり、その中で切磋琢磨して忙しい3年間でしたが、今となってみるとそれが本当に役に立っています。あの時があるから今頑張れると思います。同じくもう一度、高校生活っていったら、このコースを選ぶと思います。城野：私は科学総合コースで一生ものと言えるぐらいの友達を見つけました。それは、40名で3年間一緒にいたから仲良くなって、行事も一緒に考えて乗り越えてきて、それで楽しく3年間を過ごせたと思っています。普通科でいいやと思っている人もいるかもしれないですけど、推薦で受験の機会が増えると思って、試してもいいから受けてみたほうがいいと思います。科学総合コースお勧めします。石田：私は入学したときも何になりたいとかははっきりした目標がなく、いろんな授業をする中で、文系にも進みたい理系にも進みたいなどか思ってずっとやってきて、3年生のとき結局文系にしようと思いました。3年生の段階で決めてもどっちにもいける授業カリキュラムだったし、普通科の子が2年のときに決めなくてはならないのに、科学総合コースでは3年生でも決められるので、1年間悩む余裕があるというのは私にとってすごく大きかったです。クラスの雰囲気と言うと、女子が10名と少なかったんですけど、少ないからこそ、今でもすごく仲良く、いつも休みの時には集まるというぐらいの強い絆がついたんじゃないかなと思っていて、ねっ(城野さんと笑いあいながら)それも科学総合コースのすごい大きな魅力じゃないかなと思います。



(左から石田・城野・松本・依藤：敬称略)